

## 解説 27 『心と文化の関係』を知る

### 【課題のねらい】

ここでは、私たちの所属する社会や文化が、知らず知らずのうちに、私たちの心に影響を及ぼしていることに気付くことを目的としています。

### 【解説】

まずは、問題への回答、お疲れさまでした。1.の問題で、「私は（ ）である」の答えを20個考えるのは、なかなか骨が折れたことと思います。

さて、2.の問題で選んでいただいた、「私は（ ）である」の5つの答えに、共通点は見つかりましたか？実は、日本人の場合、この問いに対して、自分の所属や、社会的属性について答えることが多いことが指摘されています。解答例として、例えば、「私は（日本人）です」「私は（〇〇高校の3年生）です」「私は（茶道部）です」「私は（関西人）です」などが挙げられます。一方、アメリカ人の場合、この問いに対して、自分の性格を答えることが多いとされます。例えば、「私は（正直者）です」「私は（親切）です」、などです（もちろん、回答には、日本とアメリカの違いとともに、個々人の違いも広く見られることが分かっています。ここまで述べられてきたことが自分に当てはまらなくても、何も心配する必要はありません）。

なぜ、日本とアメリカで、このような違いが生じるのでしょうか。それは、日本人とアメリカ人が、各々の文化の中に生活する人間に関して「あるべきモデル」（人間観）を作り上げており、そのモデルに自分をあわせるような形で自己を形成していくためであると考えられています。日本を含む東アジア文化圏では、「人間は社会や文脈と不可分に結びついた存在である」という人間観が共有されているため、自分の所属や置かれている文脈に言及する機会が多いとされます。一方、アメリカなどの欧米諸国では、「人間は他から区別され、独立に存在するものである」という人間観が共有されています。そのため、他者との差異を強調するようなこと（性格や態度など）に言及することが多いとされます。

「人間は社会や文脈と不可分に結びついた存在である」という東アジア文化圏の人間観と、「人間は他から区別され、独立に存在するものである」という欧米文化圏の人間観の違いは、意外なところにも表れます。例えば、インターネットによるソーシャルネットワークサイトである「Facebook（フェイスブック）」の自己紹介の写真です。東アジア文化圏の国や地域（香港、シンガポール、台湾）では、自己紹介の写真に占める背景の割合が大きい一方、欧米文化圏の国（アメリカ）では、写真に占める自分の顔の割合が大きく、また表情も豊かであることが指摘されています。これは、東アジア文化圏の人々が、自分の存在の「文脈」を重んじ、背景を多く紹介する一方、欧米文化圏の人々が、自分の本質を相手に伝える上で、自己を取り巻く周辺情報に相手が惑わされないように背景をあまり写さないためであると考えられています。もしあなたが、FacebookやTwitterのアカウントをお持ちでしたら、自己紹介の写真を眺めてみてください。写真の中に含まれる自分と比較して、背景の占める部分が大きくありませんか？また、友人や部活の仲間と一緒に写っていませんか？

このように、文化によって考え方、物事のとらえ方が異なる場合があります。心理学において、人の心に社会や文化の与える影響を検討することは重要なテーマの1つであり、特にこの分野は「文化心理学」と呼ばれます。

「グローバル化」ということが叫ばれるようになって久しくなりました。私たちは今後、外国の人々と関わ

る局面がより多くなることでしょう。「話せばわかる」ほど、異文化間コミュニケーションは単純なものではありません。外国の人々の考え方が分からず、戸惑ってしまう場合もあります。こうした戸惑いは、外国の人々が日本人を前にしても同じように生じているはずで、外国の人々の考え方、そして、自分の考え方に、それぞれの所属する文化が影響を及ぼしている可能性について考えておくことは、外国の人々とコミュニケーションをはかる際に生じるこうした戸惑いを少し、軽減してくれるかもしれません。

最後に重要なことを付け加えておかねばなりません。地球上にはたくさんの人々が、自分たちの文化の中で暮らしています。これらの文化間には、「違い」はあっても「優劣」はありません。それぞれの文化の違いを互いに認め合い、対等な関係性を協力して築いていこうとすること、これこそが、グローバルな社会に私たちに求められる態度と言えるのではないのでしょうか。

文化心理学については、以下の本が大変参考になります。この問題の作成の上でも、参考にしました。詳しく知りたい方は読んでみるとよいでしょう。

- 山岸俊男（編著）『文化を実験する：社会行動の文化・制度的基盤』（2014年、勁草書房）
- 増田貴彦・山岸俊男（著）『文化心理学—心がつくる文化、文化がつくる心』（上）および（下）（2010年、培風館）
- 増田貴彦（著）『ボスだけを見る欧米人 みんなの顔まで見る日本人』（2010年、講談社+α新書）
- R・E・ニスベット（著）村本由紀子（訳）『木を見る西洋人 森を見る東洋人』（2004年、ダイヤモンド社）
- 河森正人、栗本英世、志水宏吉（編著）『共生学が創る社会』（2016年、大阪大学出版会）
- A・メスーディ（著）野中香方子（訳）『文化進化論—ダーウィン進化論は文化を説明できるか』（2016年、NTT出版）

また、「私は（ ）である」という問題について、日本人とアメリカ人の回答の違いを比較した研究は、以下の論文で行われたものです。

Cousins, S. D. (1989). Culture and self-perception in Japan and the United States. *Journal of Personality and Social Psychology*, 56(1), 124-131.

さらに、Facebookの自己紹介写真に関する研究は、以下の論文で行われたものです。

Huang, C. M., & Park, D. (2013). Cultural influences on Facebook photographs. *International Journal of Psychology*, 48(3), 334-343.

2つの論文はいずれも英語で書かれていますが、時間をかけて読むときっと理解できます。ぜひとも挑戦してみてください。